

令和3年度八尾市障害児保育審議会関係資料

令和2年度～ 実施報告

1. 乳幼児健診実施状況
2. 母子保健事業実績
3. 母子保健事業体系図
4. 子育て総合支援ネットワークセンター「みらい」児童家庭相談の状況
5. 子育て総合支援ネットワークセンター「みらい」親子教室参加者の進路等
6. 保育所（園）の保育サポートに関する相談
7. 保育サポート保育施設入所状況
8. 市立医療型児童発達支援センターにおける療育等の状況
9. 八尾しょうとく園の状況
10. 私立認定こども園等障がい児保育実施状況
11. 市立こども園・保育所障がい児保育実施状況
12. 教育センター相談件数等一覧
13. 障がい児保育実施状況

乳幼児健康診査実施状況（令和2年度）

	対象児	受診児	受診率	最終把握率
4か月児健康診査	2127	1985	93.3%	100%
1歳6か月児健康診査	2182	1976	90.6%	100%
3歳6か月児健康診査	2256	1962	87.0%	100%

4か月児健康診査 要フォロー児の内訳
※結果が「要経過」「要精検」「要治療」

実：313人（フォロー率：15.8%）

方針	延べ人数
経過観察健診	54
電話	85
面接	1
訪問	1
栄養士フォロー	19
保健師フォロー	21
保健所フォロー中	0
他機関紹介（みらい家庭児童相談）	0
他機関紹介（その他の他機関）	0
他機関フォロー中（みらい（その他））	5
他機関フォロー中（子ども家庭センター）	1
乳児後継健康診査にて確認	7
元気づきひろば	0
あなたのまちの健康相談	44
精密検査	22
既医療	62
延べ件数	322

1歳6か月児健康診査 要フォロー児の内訳
※結果が「要経過」「要精検」「要治療」

実：356人（フォロー率：18.0%）

方針	延べ人数
経過観察健診	9
発達相談	56
電話	265
訪問	3
面接	0
保健師フォロー	33
びよんびよん教室	0
スプーン教室	0
他機関紹介（みらい教室）	1
他機関紹介（みらい家庭児童相談）	3
他機関紹介（みらい（その他））	3
他機関フォロー中（いちよう 外来保育）	0
他機関フォロー中（いちよう 入園）	0
他機関フォロー中（子ども家庭センター）	0
他機関フォロー中（みらい（その他））	0
他機関フォロー中（その他の他機関）	0
保健所フォロー	1
3歳6か月児健康診査にて確認	1
あなたのまちの健康相談	5
わくわく教室	10
精密検査	3
既医療	49
延べ件数	442

3歳6か月児健康診査 要フォロー児の内訳
※結果が「要経過」「要精検」「要治療」

実：250人（フォロー率：12.7%）

方針	延べ人数
経過観察健診	9
経過観察健診（精聴覚）	2
発達相談	28
電話	123
訪問	0
保健師フォロー	22
他機関紹介（みらい（教室））	1
他機関紹介（みらい（家庭児童相談））	1
他機関フォロー中（みらい（教室））	2
他機関フォロー中（みらい（家庭児童相談））	2
他機関フォロー中（みらい（その他））	7
他機関フォロー中（子ども家庭支援センター）	1
他機関フォロー中（その他の機関）	2
あなたのまちの健康相談	0
わくわく教室	0
精密検査	51
既医療	80
延べ件数	331

※新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年3月～8月分の1歳6か月児および3歳6か月児の健康診査を延期した。上記対象者に対して令和3年10月以降に市内医療機関において個別健康診査を実施した。

※1歳6か月児健康診査と3歳6か月児健康診査について、個別実施と集団実施の結果を台算したものである。

母子保健事業実績(健診とフオロ一教室)

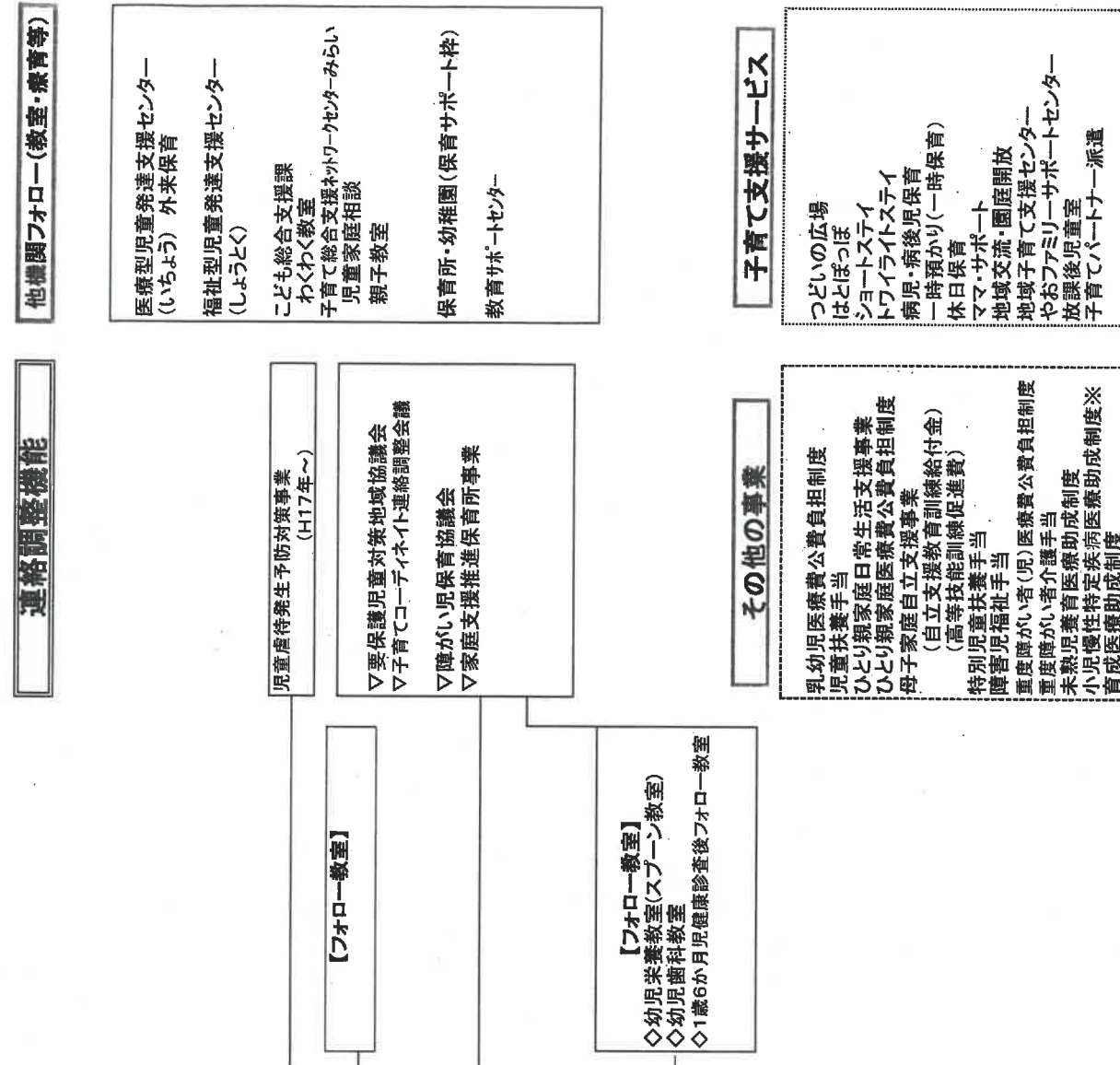
事業名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績
4か月児健康診査	開催数	46回	45回	42回	51回
	対象数	2,030人	1,937人	1,885人	2,127人
	受診数	2,010人	1,907人	1,835人	1,985人
	受診率	99.0%	98.5%	97.3%	93.3%
	フオロ一率	24.3%	25.5%	18.4%	20.4%
1歳6か月児健康診査	開催数	36回	36回	35回	35回
	対象数	2,038人	2,028人	2,010人	2,182人
	受診数	1,990人	1,954人	1,949人	1,976人
	受診率	97.6%	96.4%	97.0%	90.6%
	フオロ一率	20.8%	26.5%	21.2%	18.0%
3歳6か月児健康診査	開催数	24回	24回	24回	28回
	対象数	2,210人	2,067人	2,054人	2,256人
	受診数	2,059人	1,940人	1,929人	1,962人
	受診率	93.2%	93.9%	93.9%	87.0%
	フオロ一率	13.4%	15.7%	14.3%	12.7%
乳幼児精密健康診査 (医療機関委託)	受診数	103人(視聴覚含む)	178人(視聴覚含む)	145人(視聴覚含む)	99人(視聴覚含む)
	受診数	1,748人 異常なし 1,566人 異常および異常の疑い 182人	1,801人 異常なし 1,609人 異常および異常の疑い 192人	1,669人 異常なし 1,505人 異常および異常の疑い 164人	1,763人 異常なし 1,611人 異常および異常の疑い 152人
乳幼児一般健康診査 (医療機関委託)	受診数	1,766人 異常なし 1,575人 異常および異常の疑い 191人	1,730人 異常なし 1,535人 異常および異常の疑い 195人	1,801人 異常なし 1,569人 異常および異常の疑い 232人	1,764人 異常なし 1,562人 異常および異常の疑い 202人
	受診数	401人(12回) 332人(57人)	450人(12回) 386人(66人)	368人(12回) 307人(40人)	111人(9回) 105人(14人)
経過観察健診 (身体)(再掲・未熟児)	予約数	519人	540人	544人	469人
	受診数	495人(36回+個別)	514人(36回+個別)	523人(36回+個別)	476人(36回+個別)
1歳6か月児健診フオロ一教室 (びよんびよん教室)	参加実人数	121人	127人	111人	107人
	参加延人数	559人(48回・6回×8ケール) 対象:要経過観察児	576人(48回・6回×8ケール) 対象:要経過観察児	486人(48回・6回×8ケール) 対象:要経過観察児	460人(41回・6回×8ケール) 対象:要経過観察児
出生数	2,028人	1,979人	1,895人	1,966人	1,898人

八尾市母子保健事業体系図

母子保健指導 不妊不育相談 母子健康手帳交付 マタニティマーク普及啓発 両親教室 助産師サロン 妊婦歯科教室 産後ケア事業(H30年～) こんごちは赤ちゃん事業 えほんアビニュー事業 離乳食講習会 一般栄養相談 あなたのまの健康相談 電話相談 家庭訪問 ・ハイリスク妊産婦 ・新生児 ・未熟児 ・乳幼児 ・長期療養児※ ・身体障がい児※ ・虐待待児 ・育児不安等 障がい児(者) 歯科予防教育 [予防接種]

妊 娠 妊婦健康診査(16回) (医療機関委託) (※多胎の場合は、追加5回) 産婦健康診査(2回) (医療機関委託)(H30年～) 乳児一般健康診査 (医療機関委託) 4か月児健康診査 乳児後期健康診査 (医療機関委託)	乳 児 経過観察健診(身体・発達) 療育相談※ 他医療機関紹介 (乳幼児精査発行)	幼 児 1歳6か月児健康診査 (歯科健康診査を含む) 3歳6か月児健康診査 (歯科健康診査を含む)	学 童 療育相談※
--	--	--	---------------------

一次健診	二次健診
-------------	-------------



令和3年4月現在

※は保健所で実施

子育て総合支援ネットワークセンター「みらい」

令和2年度 児童家庭相談の状況

<相談傾向>

- ・ 児童虐待相談の増加に伴い、相談件数は全体的に増加傾向にある。児童虐待相談では、継続した支援や対応が必要なケースも多く、児童の発達課題や保護者の疾病等に起因するものも見られた。
- ・ 障がい相談の内容としては、軽度発達障がいやそのグレーゾーンであると判断され他機関より紹介されるケースや、児童の抱える課題が顕著になった保護者からの相談申し込みによるケースが多かった。また、こども園等での活動に適応しにくい児童について、こども園等が保護者に「みらい」を紹介し、相談に至るケースも見られた。

<保育サポートとの関係>

- ・ 令和2年度に、児童家庭相談から保育サポートにつながったのは8件、保育サポート対象児（在園児）の相談は10件であった。児童家庭相談から相談者は、ほとんどが継続して来所しているが、面接の頻度はケースにより異なる。保育サポートのための発達相談会への来所数は53件であった。
- ・ 来所ケースについては、母親の話をききながら、子どもへの対応の仕方を具体的に助言し、必要に応じて保育所（園）へ訪問し子どもの集団での様子を見るなど、担任との連携を図り、支援を行っている。
- ・ 就学前には教育センターの就学前相談を紹介し、スムーズに入学できるように支援している。

<相談件数（実数）の推移>

年度	養護相談			障がい相談					
	児童虐待相談	その他の相談	保健相談	肢体不自由相談	視聴覚障がい相談	言語発達障がい等相談	重症心身障がい相談	知的障がい相談	発達障がい相談
H30	672	81	3	0	0	100	0	6	74
R1	766	96	10	0	0	73	0	7	81
R2	732	66	0	0	1	55	0	8	101

年度	非行相談		育成相談				その他の相談	計
	ぐ犯行為等相談	触法行為等相談	性格行動相談	不登校相談	適性相談	育児・しつけ相談		
H30	1	0	30	9	0	97	8	1081
R1	0	0	33	10	1	89	19	1185
R2	0	0	48	14	1	73	13	1112

◆令和2年度親子教室参加者の令和3年4月の進路等

(人)

令和2年4月の進路等	令和2年度参加教室※		計
	2歳前後児 親子同室型 (ぱんだ教室)	2・3歳児 親子分離型 (ポップクラブ)	
親子教室継続	3		3
公立認定こども園・保育所			
(保育)			
(教育)		1	1
(サポート保育)			
法人立保育所(園)・認定こども園			
(保育)	1		1
(教育)		17	17
(サポート保育)		2	2
公立幼稚園			
プレ幼稚園等			
しょうとく園		1	1
児童発達支援	1	1	2
終了			
その他			
計	5	22	27

- ・教室終了後の進路確認(保護者より聞き取り)にて判断
- ・「終了」は、フォロー不要になり年度途中で終了したもの
- ・「その他」は転居、中断等
- ・H31年度実績から、内訳を教室別(ぱんだ・ポップ)ではなく学年別に変更。ぱんだ教室の2歳児利用が増加傾向にあるため

◆親子教室参加者の他施設との交流事業

(人)

保育所交流

	春	冬	計
	—	—	0
	—	—	0
計	0	0	0

※例年、親子教室参加者と公立保育所・認定こども園との交流をおこなっていたが、令和2年度は新型コロナウイルスの影響があり実施せず。

◆保育所(園)の保育サポートに関する相談(令和2年度実施)

令和2年度は9月中に面談予約をし、10月中に面談実施。

(人)

申込み経路 所属機関・関係機関	入所時年齢					計
	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
保健所						0
いちょう学園 通園			3			3
いちょう学園 外来			8	1		9
みらい 親子教室			3			3
みらい 家児相						0
保健センター						0
市内認可園			5	1	0	6
認可外保育施設等						0
しょうとく園				2		2
他市機関						0
その他(児童デイ)			16	1	2	19
所属なし			9	2		11
計	0	0	44	7	2	53

- ・市政だより等でも周知しているが、ほとんどが所属・関係機関からの情報提供による申込みである。
- ・相談では臨床心理士等専門職が対応。発達検査を実施したり、保護者からの質問に対応している。

令和2年度 障がい児(保育サポート枠)の保育施設入所状況

(令和2年4月1日現在)

〈新規分〉

※()内の数値は、令和元年度分

	申込数	入所数	その他の施設入所数等
公立	122(105)	23 (21)	26
私立		72(56)	
合計	122(105)	95(77)	26

〈年度別入所数(入所児童数は、3歳以上の保育施設入所児童数(受託除く委託含む))〉

	年度	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度
保育 サポ ート	新規申込数	108	102	86	105	122
	新規入所数	89	74	69	77	95
	継続数	101	120	124	117	117
	総入所数	190	194	193	194	212
総入所児童数		3,166	3,275	3,295	3,328	3,494

〈年齢別入所数(下段は保育施設入所児童数(受託除く委託含む))〉

		3歳	4歳	5歳	合計
公立	s	14 (15)	17 (14)	19 (17)	50 (46)
	総	168(167)	188(196)	224(216)	580(579)
私立	s	56 (43)	53 (51)	53 (54)	162 (148)
	総	989(934)	1,009(869)	916(900)	2,914(2,703)
合計	s	70 (58)	70 (65)	72 (71)	212 (194)
	総	1,157(1,101)	1,197(1,065)	1,140(1,116)	3,494(3,282)

※()内の数値は、令和元年度

令和2年度 市立医療型児童発達支援センターにおける療育等の状況

1. 契約児の療育

(1) 契約状況

(令和2年度在籍児)

※途中退園児を含む

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
3	10	6	5	1	2	27

(医療的ケア児)

気管切開	鼻腔栄養	胃ろう	酸素吸入	人工呼吸器	導尿	人数 (重複あり)
1	2	1	1	1	1	7

(2) 療育内容

① 総合療育計画の作成

② 医師による診察

小児神経科 (週2回※¹)、整形外科 (週1回)

精神科 (年3回) 歯科 (年1回)、耳鼻科 (年1回)、眼科 (年1回)

※1 R2. 7～ 計73回

③ 保育、訓練 (理学療法、作業療法、言語摂食療法)、看護 (健康管理等) を以て保護者に対して療育指導及び相談など行う。

④ 外部専門職による指導

発達相談 (年間16回)、歯科衛生指導 (年8回)

(3) 卒退園児進路状況

府立東大阪支援学校	0名	府立藤井寺支援学校	2名
大阪教育大付属支援学校	0名	公立こども園	2名
私立保育所	2名	公立保育所 (柏原市)	0名
八尾しょうとく園	3名	在宅	1名
死亡	0名	計	10名

2. 外来児の療育 (外来の対象児は ・入園を前提にした子ども ・卒退園児で継続して療育や経過観察を要する子ども ・諸機関から紹介または相談のあった子ども等)

(1) 保育外来

気づきの段階や育てにくさのある子どもの生活や遊びを豊かにすることで、保護者の子育てで支援・指導を目的としています。原則として親子同室です。

① 人数と回数 総人数 71人 (個別 人 グループ保育 人)

実施回数 770回 (個別 回 グループ保育 回)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
人数	76	62	67	58	71
実施回数	851	511	676	683	770

② 紹介機関

保健所	保健センター	みらい	医療関係 他	退園児	その他	合計
1	47	2	8	3	10	71

③ 外来理由

訓練対象児 発達の遅れ	全般的な 発達の遅れ	対人・情緒	育児不安	言葉の問題	小集団の経験	退園児の フォロー
3	30	11	0	18	5	3

④ 進路先

入園	しょうとく 園	児童発達 支援事業所	小学校	幼稚園	保育所等	在宅・転居	継続
1	4	6	2	9	14	1	34

(2) 訓練外来

在宅の乳幼児、こども園、幼稚園、学校へ通園・通学する児童に対して外来によるリハビリテーション（理学療法、作業療法、言語摂食療法）を行っている

① 人数と回数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
合計（回）	1412	1470	1603	2047	2220
0～2歳児（人）	16	28	15	38	33
3～5歳児（人）	21	26	27	42	28
就学以降児（人）	40	46	43	56	54
合計（人）	77	100	85	136	115

② 所属

在宅	保育所 こども園	幼稚園	しょう とく園	小学校	支援 小学部	中学校	支援 中学部	高校	支援 高等部	計
26	54	3	7	30	25	4	12	0	1	162

3. 相談支援

《子どもの発達等に関する保護者からの相談、施設職員への支援》

(1) 保育に関する相談支援

相談者数	86 人	延べ回数	111 回
施設訪問者数	49 人	延べ回数	39 回
引き継ぎ	5 人	延べ回数	2 回
合計	140 人	延べ回数	152 回

(2) 訓練に関する相談支援

相談者数	96 人	延べ回数	245 回
居宅訪問者数	5 人	延べ回数	8 回
施設訪問者数	8 人	延べ回数	17 回
引き継ぎ	4 人	延べ回数	3 回
合計	113 人	延べ回数	273 回

4. 関係機関への職員派遣及び相談業務

(1) 八尾保健所事業への派遣

- ・ 総合療育相談 年 6 回 (理学療法士・保育士)

(2) 保健センター 母子保健事業への派遣

- ・ 経過観察健康診査 (二次健診) 月 2 回 (保育士)
月 1 回 (理学療法士・作業療法士)

(3) 相談業務など

- ・ 保育所(園)、認定こども園、幼稚園、小学校への訪問による相談支援 (理学療法士、作業療法士、保育士)
- ・ 卒退園児のフォロー (施設職員との引き継ぎ等)

(4) 住宅改造事業への派遣 (理学療法士・作業療法士)

- ・ 現場調査及び会議

(5) 補装具交付判定の為の相談 (理学療法士)

5. 保育所等との連携及び交流 ※令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止

- (1) 公立こども園交流 (月2回程度、安中ひかりこども園)
- (2) 市立医療型児童発達支援センターを退園した児童の進路相談
- (3) 保育所等在籍児の外来 (訓練・保育) 受け入れ
- (4) 研修 (保育所等職員対象)

6. 保育所等訪問支援事業

発達に弱さがあっても同年齢の集団の中で一緒に生活し、同じ経験をして成長してほしい、また保育所等訪問支援を受けることで安心して保育所等の利用ができるという保護者の思いを支え、施設職員が抱える支援方法への悩みに寄り添い、共に目標をたてたりアドバイスを伝えたりする

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
人数	6	4	8	13	17
実施回数	93	52	55	69	111

7. 指定障がい児相談支援事業 (計画相談)

令和元年度末から開始。現状は新規の通所支援の契約児を対象にしている

8. 今後の課題

八尾市の障がい児支援の拠点としての役割をはたすために

- ・ 専門職 (理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等) の活用
- ・ 作業療法士、言語聴覚士の複数配置
- ・ 専門職 (心理士) の配置と活用
- ・ 診療所機能の充実
- ・ 居宅訪問型児童発達支援の実施
- ・ こども園・幼稚園の発達が気になる子どもとその家族支援 (SST・ペアレントトレーニング) の実施
- ・ 職員の人材育成 (専門領域に関する知識や資質の向上)

八尾しょうとく園の状況

令和2年度実績

	福祉型児童発達支援センター	
	定員	在籍（契約）者数
4月	68	59
5月	68	59
6月	68	59
7月	68	63
8月	68	63
9月	68	66
10月	68	66
11月	68	67
12月	68	67
1月	68	68
2月	68	68
3月	68	68
	延べ人数	773

※児童発達支援センター

児童福祉法に基づき、福祉型児童発達支援センターとして障がい福祉サービスを提供し、療育指導等を行っている。

令和3年3月時点

<クラス編成>	<児童数>
2～3歳児（すみれ組）	13人
3歳児（さくら組）	12人
3～4歳児（ふじ組）	14人
4～5歳児（きく組）	14人
5歳児（ひまわり組）	15人

※令和元年度より定員を68人に拡充したことに伴い、5クラスでの編成となっている。

※児童発達支援「こぐま組」は、市内の民間児童発達審事業所の増加とセンター本体の利用ニーズの高まりにより、令和元年度からセンターに統合した。

令和2年度 私立認定こども園等障がい児保育実施状況

<p>1. 障がい児巡回指導 (専門講師による保育指導)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象 加配保育士が配置されている障がい児 ・講師及び巡回指導回数・・・年間各1回 <ul style="list-style-type: none"> 大阪府立大学名誉教授 安藤 忠 氏 桃山学院大学教授 安原 佳子 氏 武庫川女子大学准教授 鶴 宏史 氏 神戸常磐大学講師 松尾 寛子 氏
<p>2. 障がい児保育研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育研修 “支援を必要とする子どもたちへの支援の基本について” 講師 大阪府立生野聴覚支援学校 河内 清美氏
<p>3. 障がい児保育の実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担任とサポート保育教諭、また他の保育教諭との連携を強化し、サポート児を含めたクラス運営を行っている。 ・「個別の年間指導計画」を立案し、月の指導案で個々の目標に沿う支援に努めた。 ・個別対応の中で、必要に応じて関係機関や専門機関と連携を取り、児童デイ等訪問に来てもらい助言を受け保育に生かした。 ・就学前には教育センターと関わりを進め、小学校入学に向けてスムーズに学校と連携できた。
<p>4. 他機関との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・在園児についての相談等 <ul style="list-style-type: none"> ・・・医療型児童発達支援センター「いちよう」、子育て支援ネットワークセンター「みらい」、教育センター ・在園児の支援・・・JSS水夢 株式会社ジェイエスエス (児童発達支援) 児童デイサービス あうる (児童発達支援義業所) (※コロナの為に懇談会はできなかった。) ・公立園の特別支援教育・保育コーディネーター会議に参加させてもらう(園長)

<p>5. 在宅家庭支援 (親支援について)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各保育園・こども園の地域交流での親子支援 一時保育・保育園体験・園庭開放・子育て相談等で発達に課題を持った子どもと保護者に対する支援や援助を行い、必要であれば関係機関を紹介する予定でしたが、コロナの感染症対策で交流が出来なかった。
<p>6. 保育現場における問題点及び課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス運営では担任と支援児担当保育士が連携し、子どもが過ごしやすい環境を整えるために、経験の浅い職員がコミュニケーション能力やスキルアップの為に研修を受ける必要がある。 ・サポート児だけでなく、パステルカラーの園児の支援と保護者対応が難しく、特に就学前児を教育サポートセンターに繋げる為の保護者へのアプローチが難しい。できれば、保護者対応時に専門機関の連携があると園としては安心できる。 ・保護者の就労を保障する為に、保育時間の延長に対応する保育体制の確保をはじめ、様々な状況に対応できるように配慮する必要があるが、現実には人材確保が難しい状況である。

令和2年度 市立こども園・保育所 障がい児保育実施状況

<p>1. 障がい児保育の 実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導の実施 大阪府立大学名誉教授 安藤 忠 氏 (2回) 大阪府立生野聴覚支援学校 河内 清美 氏 (5回) ・気管切開等で日常的に医療器具を使用して保育をうける医療的ケアの必要な子どもについて、各園の看護師による対応を行っている。 ・研修や、各園での支援者担当者会議を通して、担任と加配保育者の連携を工夫し、支援を必要とする子どもたちを含めたクラス運営を目指している。 ・「個別の年間指導計画」「個別指導計画」を作成し、職員間で情報を共有し園全体で支援する体制づくりに努めている。 ・一人ひとりに適切な支援を行えるよう、必要に応じて関係機関や専門機関と連絡をとっている。必要な時は職員も保護者とともに助言を受ける等している。
<p>2. 他機関との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流 …医療型児童発達支援センター「いちよう」 2歳児～5歳児親子との交流 (毎月1～2回 安中ひかりこども園) →計画していたが、新型コロナウイルス感染症のため、中止となった。 ・在園児についての相談等 …子育て総合支援ネットワークセンター「みらい」、医療型児童発達支援センター「いちよう」、教育センター(就学相談)
<p>3. 在宅子育て家庭への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各園の地域交流での親子支援 遊びの中で、障がい児や発達に課題を持った子どもと保護者に対する支援や相談援助を行い、他の子育て支援メニュー紹介等を通して見守っていく。
<p>4. 保育現場における 問題点及び課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が社会とのつながり(就労など)を望まれることが多く、それを保障する為には、保育体制の確保をはじめ、様々な状況に対応できるように準備しておく必要がある。 ・リーダーと加配保育者のそれぞれが、担当支援児の障がいについての知識や専門性を高め、共通認識をもって取り組む必要がある。 ・インクルーシブ保育について、研修等で学び共通認識をもてるようにするとともに、クラス運営についても検討していく。

令和2年度 教育センター 相談件数等一覧

<教育相談>

- ・一般教育相談…不登校、いじめなど、子どもの生活全般にわたる相談
- ・特別な教育的支援が必要な子どもの教育相談…家庭での養育、学校園での支援などの相談
- ・子育て支援…生活、学習など子育てに関する相談

*教育相談実施状況

相談種別	件数
① 性格・行動に関するもの	58
② 不登校に関するもの	86
③ 身体上の問題に関するもの	0
④ 発達や学業に関するもの	262
⑤ 進路に関するもの	205
⑥ 心理検査等	0
⑦ 言語に関するもの	4
⑧ その他	14
合計	629

*対象別件数

	所属	件数
幼児	保育所	22
	幼稚園	15
	認定こども園	124
	施設	18
	在宅	1
児童生徒	小学校	341
	中学校	102
	支援学校	2
高等学校	3	
その他	1	
合計	629	

*「②不登校に関するもの」の校種別件数

校種	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他	合計
件数	0	36	47	2	1	86

*「⑤進路に関するもの」のうち、就園就学相談件数の推移

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
就園	27	23	21	11	21	6	2	0
就学	111	140	144	173	176	190	185	192
(小学校)	85	109	111	145	146	151	158	176
(中学校)	26	31	33	28	30	39	27	16
合計	138	163	165	184	197	196	187	192

*面接場所

面接場所	センター	青少年センター	学校	幼稚園	保育所(園)	認定こども園	家庭	医療機関	専門機関	その他	合計
相談述べ回数	5567	18	1371	4	7	59	0	19	23	9	7077

*電話による教育相談年度別受信件数

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
件数	69	72	71	60	70	62	43	61

<さわやかルーム>

- ・心理的または情緒的な原因等によって、登校の意思があるにもかかわらず、登校できない児童生徒に対し、学校復帰を前提として、教育相談、学習支援や集団生活への適応指導を行っている。

*入級児童生徒数の推移

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
児童数	2	1	1	0	0	1	0	0
生徒数	9	14	10	10	12	8	9	4
合計	11	15	11	10	12	9	9	4
再登校数	10	13	9	8	9	7	8	4

<各種電話相談>

*青少年相談（進路相談を含む）年度別受信件数

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
件数	147	121	44	36	33	29	15	30

令和2年度 障がい児保育実施状況

1. 障がい児巡回指導	<ul style="list-style-type: none"> ・対象：保育サポート児 ・講師及び巡回指導回数・・・年間1回 <p>公立園</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">大阪府立大学</td> <td style="width: 50%;">名誉教授 安藤 忠 氏 (2回)</td> </tr> <tr> <td>大阪府立生野聴覚支援学校</td> <td>言語聴覚士 河内 清美 氏 (5回)</td> </tr> </table> <p>私立園</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">大阪府立大学</td> <td style="width: 50%;">名誉教授 安藤 忠 氏 (7回)</td> </tr> <tr> <td>武庫川女子大学</td> <td>准教授 鶴 宏史 氏 (4回)</td> </tr> <tr> <td>桃山学院大学</td> <td>教授 安原 佳子 氏 (11回)</td> </tr> <tr> <td>神戸常盤大学</td> <td>准教授 松尾 寛子 氏 (10回)</td> </tr> </table>	大阪府立大学	名誉教授 安藤 忠 氏 (2回)	大阪府立生野聴覚支援学校	言語聴覚士 河内 清美 氏 (5回)	大阪府立大学	名誉教授 安藤 忠 氏 (7回)	武庫川女子大学	准教授 鶴 宏史 氏 (4回)	桃山学院大学	教授 安原 佳子 氏 (11回)	神戸常盤大学	准教授 松尾 寛子 氏 (10回)
大阪府立大学	名誉教授 安藤 忠 氏 (2回)												
大阪府立生野聴覚支援学校	言語聴覚士 河内 清美 氏 (5回)												
大阪府立大学	名誉教授 安藤 忠 氏 (7回)												
武庫川女子大学	准教授 鶴 宏史 氏 (4回)												
桃山学院大学	教授 安原 佳子 氏 (11回)												
神戸常盤大学	准教授 松尾 寛子 氏 (10回)												
2. 特別支援保育ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバー <ul style="list-style-type: none"> 教育センター1名 こども施設課1名 副園長1名 公立こども園特別支援教育コーディネーター5名 看護師3名 保育教諭8名 (各公立こども園・保育所・医療型児童発達支援センター) 作業療法士1名 ・開催回数 <ul style="list-style-type: none"> 年間 (全体会3回 巡回指導7回 施設見学4回 園内研究会1回) ※R2年度 第1回全体会は緊急事態宣言により資料送付のみ ・内容 <ul style="list-style-type: none"> 全体会 (活動計画 巡回指導報告 グループワーク等) 巡回指導 自園で巡回指導に参加し、支援方法などを学ぶ 施設見学 八尾市立医療型児童発達支援センター いちよう 園内研究会 保育サポート児に対する支援を観察し、参加者で討議を行う。 												
3. 障がい児保育研修	<ul style="list-style-type: none"> ①「支援を必要とする子ども一人ひとりに寄り添うために」 <ul style="list-style-type: none"> こども施設課職員による研修 ②「感覚運動の発達について (乳幼児の定型発達の視点から)」 <ul style="list-style-type: none"> 「子どもの言語発達及び摂食機能について」 医療型児童発達支援センター職員による研修 (作業療法士・言語聴覚士) ③支援を必要とする子どもたちへの支援の基本について <ul style="list-style-type: none"> 大阪府立生野聴覚支援学校 言語聴覚士 河内 清美 氏 ④子どもの偏食についての捉え方と対応 <ul style="list-style-type: none"> 大阪府立大学大学院 准教授 立山 清美 氏 												